

### 1 受賞団体・個人の名称

さんぶ野菜ネットワーク (千葉県山武市)

(問い合わせ先)

<http://www.sanbu-yasai-net.or.tv/>

0475-89-0590

(経歴)

昭和63年12月、農協園芸部の中に無農薬有機部会を設立。

平成12年12月には、1年間の準備期間をかけてJAS有機認証を受け、

平成17年2月に農事組合法人さんぶ野菜ネットワークを設立した。

(受賞時の経営内容)

ニンジン、レタス、サトイモ他、合計107品目

JAS有機38ha、特別栽培42ha

46人



### 2 生産面の取組

土づくりの実践工夫

- ・緑肥作物、対抗植物の作付。
- ・杉の間伐材を利用した炭による土壌改善。
- ・土壌分析を利用し、適正施肥の実施。
- ・地元企業に委託し、肥料の開発製造。

病害虫防除の工夫

- ・ハウス栽培の場合は、防虫ネット、粘着テープ、ホリバーテープ、場合によっては天敵を活用し、害虫防除を行っている。
- ・線虫対抗植物を作付し、輪作ローテーションの中に取り入れている。
- ・輪作体系にあたっては、1農家当り10～15品目を作付し、連作しないよう年2回品目調整を行っている。

種子の確保等

- ・種子消毒をしていない種苗を販売している業者から種苗を買い入れるなど、可能な限り種子消毒を回避している。
  - ・種子消毒を行っていない市販種子の入手が困難な白菜、里芋、八つ頭、生姜、落花生、らっきょう、人参の自家採種の取り組みを行っている。
  - ・耕うんについては、サブソイラ、プラウ耕などで深耕している。
- 家畜排せつ物、稲わら、食品残渣、農業用廃ビニール等のリサイクル利用の実践と工夫
- ・堆肥は、地元養豚農家及び酪農家と連携し、資源循環に務めている。
  - ・農業用ビニール等については、市・JAが実施している廃プラスチックの収集に参加している。
  - ・ダンボール削減のため、コンテナ中心の出荷体制に転換している。



### 3 経営面の取組

多元チャネル販売

- ・多様な販売先に供給することで、リスクを分散している。
- 生産段階における工夫
  - ・年2回作付計画を取りまとめ、各供給先との調整により契約栽培を実施。
  - ・合計107品目に取り組むことで、幅広い顧客ニーズに応えるとともに、リスクの分散を図っている。
- 加工・業務用需要への対応
  - ・利幅の大きい加工品目、加工品種を増やすことで、経営の安定化を目指している。
- セット野菜への取り組み
  - ・直接消費者に宅配する野菜セットの取り組みに力を入れている。

### 4 取組の成果

自家採種の取り組み

- ・大浦ごぼうや千歳白菜など、在来種の自家採種、保存の取組をしている。
- 生物多様性の維持
  - ・化学合成農薬を使用していない水田周辺で、蛍の生息状況調査をしている。
  - ・有機農業に取り組んだ結果、益虫が増えたが、害虫も増えた。しかし、慣行栽培と違い、害虫が発生しても一瞬で大きく広がることはなくなった。
- ほ場の拡大
  - ・年々JAS有機認証ほ場が拡大し、来年度には40haを超える予定である。

### 5 地域社会への貢献

創造性・地域的な影響力

- ・地域ブランド確立のため、人参ジュース等の開発に取り組んでいる。
- 有機農業に関する技術の調査、研究開発、普及への貢献
  - ・各種団体の研修会に参加し、新たな知識、情報の収集に努めている。
  - ・各種懇談会などで、当団体の活動について事例発表するなど、有機農業の普及に努めている。
- 有機農業者の指導・育成への貢献
  - ・新規就農者・研修生の受け入れ態勢の検討を進め、担い手の育成、確保に取り組んでいく。
- 地域の農業資源保全と活性化
  - ・5ヶ所3.5haで遊休農地や耕作放棄地を借り受け、ほ場面積を拡大するとともに、地域の環境保全、活性化に寄与している。